

## 夜景サミット 2013in 香港（所感）

長崎市議会議員 堤 勝彦

9月26日から29日の日程で、市長・副議長に同行し視察してきたのでご報告申し上げます。

26日は、移動日で、飛行機の到着・出発が遅れたため2時間程遅れて現地へ入った。

ホテルまでは、バスにて移動するなか、香港の高層マンション街や工場の夜景そして大橋のライトアップに感銘しながらホテルへ無事に到着できた。

27日、朝からバスにて夜見る香港の街との違いを探るための市内視察。昼には戻り「夜景サミット in 香港」が行われる会場である香港日本人倶楽部へ移動する。

13時、夜景サミット第1部が、NHK 含むマスコミ各社がごった返す中、主催者代表の挨拶でスタート。夜景サミットの目的と日本の夜景観光資産について述べられ、その後、香港総領事からの歓迎のご挨拶があり、香港で活躍する日本語が堪能なテレビタレント2名が「日本夜景応援大使」として任命式も執り行われた。

第2部では、日本の夜景紹介いわゆる事例発表。トップバッターは、わが長崎市、プロジェクターを使いながら田上市長が外国の旅行業者や参加者に興味を抱いていただけるように通訳を通してプレゼンテーションを行った。持ち時間の25分を少々オーバーするくらいの熱い訴えに場内、拍手喝采であった。

次に、香港、モナコと続き日本国内各都市のプレゼンテーションへと続いていく。しかしどの都市も、ここが売り込み何処との思いからでしょう、持ち時間をオーバーする都市ばかりで、この夜景サミットに賭ける情熱がひしひしと伝わって来た。

こういうことから田上市長は、各都市のプレゼンテーション中もマスコミ各社からのインタビューに追われている。

そして夜の会食会場では、各都市パンフレット等展示しながらの会談、そこでも各都市の皆さんから「長崎市は、夜景観光に対する姿勢が他都市とぜんぜん違う！市長や議員が参加されるなんてなんと力の入れようだ！」というような褒めのことばを何人の人からも聞くことが出来た。

田上市長へのインタビューからも、マスコミの皆さんも長崎市にずいぶん興味を持ってくださっているようだった。このようなことから今回の夜景サミットは、十分な情報発信ができたし、長崎市の一人舞台のような気がした。

28日は、朝から出発し、夜の景色と昼間の景色との差を探るため、前日巡ることができなかった視点場を巡った。

特にザ・ピークまでのケーブル列車には大変驚いた。まずは、乗車待ちの乗客の数、人・人・人…列車の運行時間は10～15分間隔で運行しているのだがあまりの多さに2時間待ちは当たり前だという。

幸い私らは、旅行代店の計らいで事前予約をしてあったため短時間待ちで乗車することが出来た。

45度くらいの角度で登っていくような感覚で山頂を目指す。すると途中から右カーブ、まさか曲がって登って行くとは思っていなかったのが驚いた。さらに香港市内の高層ビル群を斜めに眺めながらの移動とあって不思議な感覚で山頂へ到着。標高約500mくらいの展望台付近の広場へ出た。

ここは、道路も整備されており広場付近には、ショッピングを楽しめるモールもあり1つの街の中にあるような気分。ただ私らは時間の都合上、小走りで走り抜けるだけだった…

その後混雑にひっきりながら九龍に移動。香港から見ると対岸側である。こちらから見る香港島は、高層ビルが立ち並ぶ大都会の風景で夜の演出がどうなるのか探った。

香港島までは、船で移動。乗船料は、日本円で約50円くらいと市民の足となっている。ただ行き交う船舶の多さに事故は起きないのかと心配しながら香港島側に到着。それから路面電車とバスにてホテルまで移動。この路面電車も市民の足として利用されていることから長崎市とダブって見えた。ちなみに路面電車は2階建である。

そして夕方、食事も摂ることも出来ずまま、夜景サミットの続きであるバスツアーへと移る。

各都市の方々と昨日今日廻った視点場を巡った。こちらも短い夜の時間を利用しての移動とあってドタバタの視察である。幸い昼間に一度見ていたから勝手がわかりスムーズに対応できた。

しかし、ザ・ピークからの夜景は、圧巻だった昼間の姿もすばらしいが夜のビル群の光の演出に声も出ないくらい衝撃的で「こりゃ～敵わんわ…」とつぶやいた。その時、周りの人々を見ると本当に幸せそうな顔であふれていた。

そしてここも時間と人に押されながら次の視点場へ移動。20時までに到着しないと次の演出を見ることができないという。

大混雑の中なんとか到着でき、毎日行われているというイベントに何千人と集まっている視点場でわずかだが時間を待つ、20時ちょうど、音楽が流れ始めレーザーショーの始まりです。

会場中、大歓声。音楽とレーザーのビームと高層ビル壁面の光がコラボレーションして湾内に集まった人々たちの笑顔で満ちあふれていた。

次に空港までの続く高速道路に架かる大橋のライトアップとそこから観る街の夜景、そして移動途中の工場群のライトアップなど、日本国内の夜景視点場と比べても、スケールが大きく最高級であった。香港の夜景は、とにかく参考になることばかりである。

29日は、早朝より空港まで移動し出国、福岡経由で無事に長崎到着できた。今回の視察では、各都市の方々と夜景について話ができて、お互いの都市でアイデアを出し合い、やれることからやって行くという一致した想いの人々の集まりであった。

また、香港ほどの演出は無理なのかもしれないが、長崎市の地形を生かした夜景の演出に市議会としても総力上げて取組み、民間が加わりたくなるような仕組みを構築できれば、必ずや誘客拡大に役に立てると信じてます。

最後に香港にて対応して下さった関係者の皆様に心から感謝申し上げ、ご報告といたします。